

シラバス参照

科目名	産業経済論Ⅱ
配当年次	1年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	小林 哲也(コバヤシ テツヤ)
期間・曜日・時限・教室	後期 水曜日 2時限 __

※	
授業の目的・目標	<p>【講義の概要】 本講では、産業構造の基本的な考え方をおさえながら、その発展と方向性を解説する。また、重要な産業の1つである製造業を取り上げ、その特徴や現状、方向性、さらには課題を探ることで、経済における産業のあり方を理解する。なお、授業に際しては、担当教員の過去の実務経験を背景とした内容も展開する。</p> <p>【講義の目的】 本講を通じて産業経済の基本的な考え方についての知識を理解できるようにする。</p> <p>【修得できる力】 知識・理解</p> <p>【講義の到達目標】 本講の到達目標は、産業経済における基本的な知識の修得及び、それをもとに自ら考えることのできる分析能力の修得にある。</p>
準備学習等の指示	<p>事前に講義スケジュールに記載したキーワードを調べ、内容を理解しておくこと。配布資料を事前に必ず読み、予習しておくこと。授業終了後は必ず内容を振り返り、要点をまとめておくこと。確認のための小テストを実施するので必ず受けること。標準的な事前・事後学習時間は3時間である。解らないことがあった場合には、必ず担当教員に質問すること。質問等の機能をwebclass上に設定する。担当教員からフィードバックします。</p>
講義スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション-グローバル化の進展と産業の役割 グローバル経済下での産業の役割を理解できる。 2. 日本の海外直接投資とその変化 ブラザ合意が二歩の海外直接投資に与えた影響を理解できる。 3. アメリカにおける日本産業の現地生産 日系メーカーのアメリカ現地生産の背景を考察することができる。 4. アジアにおける日本産業の現地生産 日系メーカーのアジア現地生産の背景を考察することができる。 5. グローバル化とその影響 産業のグローバル化の影響を考察することができる。 6. グローバル化の新展開 地域主義の進展の背景を理解できる。 7. 新興国市場への展開 新興国市場への産業の展開の特徴を理解できる。 8. 日本のシステムの再考 日本的なシステムが機能しなかった背景を考察することができる。 9. 環境問題への対応とその方向性 環境問題の意味が変化した背景を考察することができる。 10. エコビジネス・エコプロダクツ エコがコスト要因から収益要因に変化した背景を考察することができる。 11. 労働を巡る問題と産業との関係 少子高齢化が産業に与える影響を理解できる。 12. 情報通信産業が製造業に与える影響 情報通信産業と製造業の融合の効果を考察することができる。 13. グローバル市場における競争環境の変化 グローバル経済の構造変化が競争環境に与える影響を理解できる。 14. 日本産業をめぐる競争環境の変化 ビジネスモデルの変化が競争環境に与える影響を理解できる。 15. まとめ 授業に対するフィードバックを通じて内容を深く理解できる。
教科書	特に指定しない
参考文献	必要に応じて指示する。
授業の方法	スケジュールに従い講義方式によって授業を進める。
成績評価方法	授業への参加状況：30%、期末試験：70%にて評価を行う。
オフィスアワー	月曜日5時限を予定。

居室	12号館2階 207 小林(哲)研究室
ホームページ	
その他特記事項	新型コロナウイルス感染症対策のため、授業方法を変更する可能性がある。授業方法等については、webclassを通じて連絡するので、事前に必ず確認しておくこと。
添付ファイル	